

医学部医学科 薬理学講座

研究テーマ：心虚血再灌流後のノルエピネフリン過剰放出に及ぼす一酸化窒素の影響

キーワード：虚血性心疾患、硝酸薬、交感神経緊張、一酸化窒素

予測される技術成果・効果：

虚血性心疾患に対する NO の新たな治療効果の有無を確認

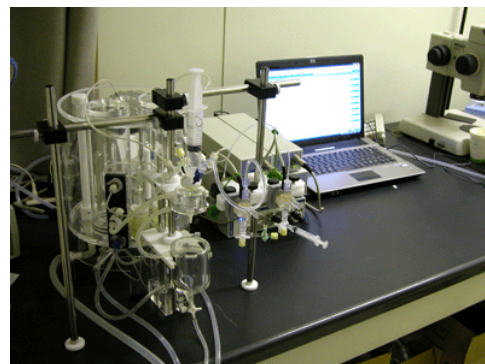
事業化が期待できる分野：

虚血性心疾患における硝酸薬の利用効率向上

| | | |
|--|--|---|
| <p>概要 研究の全体構想は、虚血性心疾患の発症、進展に関与する交感神経緊張に及ぼす生理活性物質の影響を解明することである。本研究では、生理活性物質の一つである一酸化窒素(NO)に着目し、その血管拡張作用ではなく、交感神経緊張に及ぼす影響に焦点を当て、虚血性心疾患に対する NO の新たな治療効果の有無を確認する。</p> | | <p style="text-align: right;">たわ まさし</p> <p>名前 田和 正志 職名 助教</p> |
| | | <p>主な経歴：薬学修士 所属学会：日本薬理学会、日本循環薬理学会、日本高血圧学会、日本 NO 学会</p> |

■ **内容**

交感神経活動の亢進は、虚血性心疾患の発症、進展に重要な役割を果たしている。虚血性心疾患の治療薬、中でも予防薬としては、主に NO 供与体が使用されている。その理由は、NO 供与体が、静脈血管系を拡張させ心臓の仕事量を減少させるからである。しかし、NO の虚血性心疾患に対する予防薬、治療薬としての効果は血管の拡張作用のみに注目されており、その発症、進展の原因因子である交感神経活動亢進に対する効果は不明である。本研究では、上記のことを明らかにするため、摘出心灌流標本(Langendorff 法)を用いて検討する。



Langendorff システム

| | |
|-------------|------------------------|
| 特許・共同研究等の状況 | なし |
| 希望する連携形態 | 問わない |
| 希望提携業種 | 虚血性心疾患等に関連する研究開発機関及び企業 |

Shiga University of Medical Science

お問い合わせ先：滋賀医科大学 産学官連携担当

TEL : 077-548-2082

FAX : 077-548-2086

E-mail : hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp